

Editor's eye

・特集・

手足の皮膚病

編集担当 久保 亮治

あまりにもあたり前すぎて普段は意識していないが、よくよく考えてみるとヒトの皮膚というのは身体の部位によって大きく異なっている。頭皮、手背と掌、足背と足底、腋窩、陰囊。それぞれ外観も異なれば付属器をはじめとして構造も異なり、それぞれに特有の機能を備えている。思えば消化管も、口腔、食道、小腸、大腸と、場所によって構造も機能もまるで異なるわけで、皮膚も部位ごとにそれぞれ別の臓器だと考えたほうがよいのかもしれない。

今回の特集は手足である。「総説」「研究」では汗をテーマに取りあげた。“手に汗を握る”というが、手足の汗の基本的な役割は滑り止めである。たとえばマウスのエクリン汗腺は手足にしかない。興味深いことにマウスでは、足底に主に毛が生えている種と、主にエクリン汗腺がある種があり、これらをかけ合わせると毛とエクリン汗腺を中間の割合でもつ子、そしてさまざまな割合でもつ孫・ひ孫が生まれてくる。ここから古典的な遺伝学の手法を用いて責任遺伝子を特定した論文があり、En1という転写因子の働きによって、毛が主になるかエクリン汗腺が主になるかが調節されていることがわかっている (Kamberov YG, et al : Proc Natl Acad Sci U S A 112:9932, 2015)。

「臨床例」に関しては、感染症、免疫疾患、血管系疾患、腫瘍性疾患、先天性疾患など、多彩な症例を取りあげた。また、先天性掌蹠角化症については「図譜」でアトラスを企画した。本特集で取りあげたそれぞれの疾患において、手足に主に症状が出ることの背景には、それぞれに(既知のものであれ未知のものであれ)理由があるはずである。なぜこの症状は、全身の皮膚の中でこの場所を選んで出てきたのだろうか？なぜ他の場所には出ないのだろうか？その理由に考えを巡らせながら、それぞれの論文を読んでいただければ幸いである。